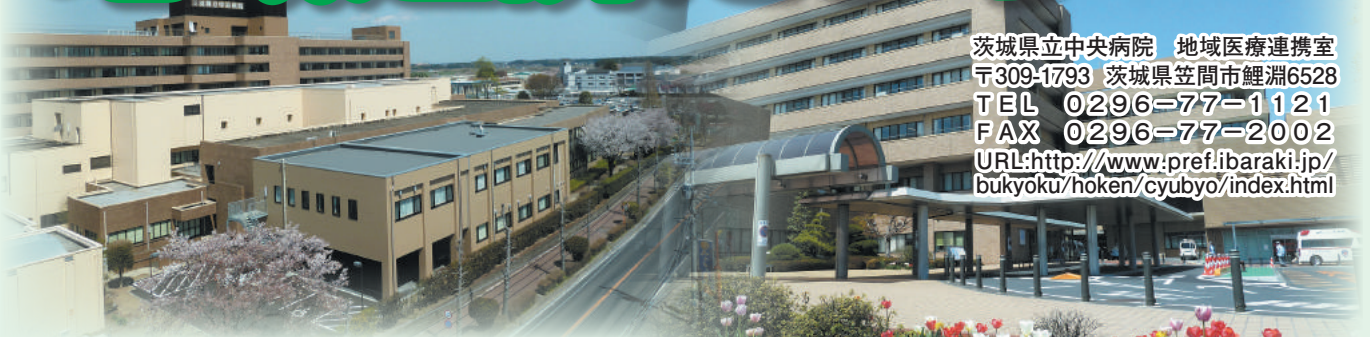


地域連携だより

vol. 4



茨城県立中央病院 地域医療連携室
〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528
TEL 0296-77-1121
FAX 0296-77-2002
URL:<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/cyubyo/index.html>

新秋の候、貴院におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素より、当院の地域連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
地域連携だよりでは、当院の情報をお知らせいたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。



●放射線治療センター (Radiation Oncology Center)



放射線治療センタースタッフ

放射線治療センター長

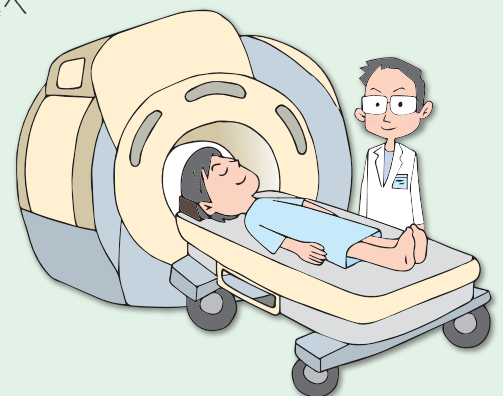
玉木 義雄



当センターは平成21年4月に開設され、県央・県北地区の放射線治療の中核施設としての機能を果たすべく、スタッフや機器整備を進めてきました。現在、スタッフは放射線治療専従の常勤医3名、専従の診療放射線技師7名、医学物理士1名、看護師3名で業務を行っております。また、外部放射線治療

装置（リニアック）2台を備え、通常の3次元放射線治療はもとより、強度変調放射線治療（IMRT）、脳および体幹部定位放射線治療、呼吸同期照射、画像誘導放射線治療等の高精度放射線治療を実施しています。昨年度の新規放射線治療患者数は441名で、再治療を含めると延べ524件の治療を行いました。新規治療患者の原発臓器としては、肺、婦人科、乳腺、泌尿器が多く、次いで、頭頸部、胃・大腸、食道、リンパ造血器の順でした。IMRTは平成26年1月から保険診療として開始し、前立腺癌、頭頸部癌、婦人科癌を中心に、延べ患者数は250名を超え、県内では有数の患者数となりました。外部照射の他に、骨転移に対するメタストロン、甲状腺癌や甲状腺機能亢進症に対する放射性ヨウ素内療法も行っています。現在放射線治療センターは増改築工事中で、来年3月には新しい治療室に最新型のリニアックを導入いたします。

今後も地域医療機関の皆さまのご協力の下、患者さまに信頼される質の高い放射線治療を提供できるようにスタッフ一同引き続き努力してまいります。



●各診療科のご紹介

泌尿器科

副院長兼がんセンター長

大谷 幹伸

連携医療機関の先生方には、当院泌尿器科の診療にご理解とご支援頂き、感謝申し上げます。

当院の泌尿器科診療は4人の常勤専門医と週1回の非常勤医師による外来診療、及び週1日の研修医の合計6名の医師で行われています。泌尿器疾患は尿路結石、尿路感染、排尿障害、泌尿器がん等多岐に渡るのですが、前立腺がん、膀胱がん、腎がんを中心としたがん治療を主として行っています。

2012年より先進技術であるロボット（ダビンチ）支援手術を導入しました。世界的には前立腺全摘術の標準治療として行われていて、本邦でもこの数年間に急速に普及しています。この手術方法は体にポート（穴を開ける）を数箇所おいて手術を行いますので、手術侵襲が少なく、患者さんに優しいのが特徴です。本手術方法の保険適応は前立腺と腎臓のみですが、当科では今日までに前立腺全摘122例、腎部分切除術14例、膀胱全摘術4例施行しました。そのほかに、前立腺肥大症に対する薬物療法、前立腺がんに対するホルモン療法患者を多数診



泌尿器科スタッフ

療しています。また女性の排尿障害（頻尿、失禁）には、専門外来で対応しています。

また、北関東では初めてグリーンレーザーを導入しました。これは下部尿路結石の治療と前立腺肥大症の手術療に用いられますが、特に前立腺肥大症の従来の電気メスによる切除術と比較して、手技が比較的簡単で出血量が少ないとされています。

以上当科の診療を簡単に紹介いたしました。先生方でお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、遠慮なくご紹介をお願いいたします。

血液内科

血液内科部長

堀 光雄

当院と連携をお願い申し上げます皆様には、平素よりたいへんお世話になっております。この場をお借り致しまして心より御礼申し上げます。

血液内科では白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの疾患を扱います。

入院患者さんの平均年齢は65歳と高齢化が進んでおり、高齢発症の多い多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群の疾患数がこの5年間で倍増しています。2015年の年間



血液内科スタッフ

延べ入院数は、血液内科では292人で、総数は2014年と比較して60人ほど増加しています。

スタッフは2016年現在、血液内科専門医が院内に4人常駐しています。病棟業務は腫瘍内科と合同で行っています。悪性新生物の治療に対してお互いの強みを生かして、癌治療に立ち向かっていこうという診療科どうしの協力によるものです。また化学療法は、副作用などがコントロール出来た時点で、外来化学療法センターにて継続して治療を行っています。

治療整備としてはクラス100の無菌室2床、クラス500レベルの無菌室5床を有し、血液成分分離装置一式がそろっており、末梢血幹細胞移植が同時可能です。

検査設備としてはフローサイトメトリーによる、白血病細胞並びに悪性リンパ腫の解析を、遺伝子定量装置、遺伝子配列解析装置などにより診断に必要な遺伝子関連の解析が院内で迅速に出来るように整備しています。2015年は600件以上の遺伝子検査（WT-1定量、Major BCR/ABL定量、JAK2変異等）を院内で行なっています。

茨城県では血液内科医の数が減少しており、ご紹介に対して迅速な対応が十分できていないのが現状です。これからも努力して参りますのでよろしく申し上げます。

